

■ 乗組員名簿

①士官	17名	④大工役	1名	⑧長崎出身水主	31名	凡例	年齢	太平洋横断時のかぞえ年齢
②医師	4名	⑤鍛冶役	1名	⑨米海軍士官／水兵	11名		◎印	長崎海軍伝習所出身者
③奉行従者	5名	⑥塩飽出身水主	35名	合計			▼印	幹事教授方頭取挨拶参照

※医師・奉行従者は、士官待遇／医師は、見習従者を含む

※解釈／見解の相違がありましたら、ご指摘ください。

士 官

番号	随伴艦内 職名	氏名	年齢	識別	生年月日／没年月日／戒名
			職名などの追記		
1	軍艦奉行	木村振津守喜毅	31	▼	1830(天保元)年2月5日生 1901(明治34)年12月9日没
			軍艦奉行		
2	船将	勝麟太郎義邦	38	▼◎	1823(文政6)年1月30日生 1899(明治32)年1月19日没
			軍艦操練所教授方頭取		
3	砲術方 運用方	佐々倉桐太郎義行	31	▼◎	1830(天保元)年生 1875(明治8)年12月17日没
			浦賀奉行配下与力、軍艦操練所教授方出役		

4	運用方	鈴藤勇次郎敏孝	35	▼◎	1826(文政9)年生 1868(明治元)年8月19日没
			普請役格、鉄砲方江川太郎左衛門配下手代 軍艦操練所教授方出役		
5	運用方	浜口興右衛門英幹	31	▼◎	1829(文政12)年11月15日生 1894(明治27)年10月15日没 戒名＝賢徳院殿雄誉英幹大居士
			浦賀奉行配下同心、軍艦操練所教授方出役		
6		根津欽次郎勢吉 【運用方手伝】	21	▼◎	1839(天保10)年生 1877(明治10)年12月21日没
			小普請組柴田能登守組、軍艦操練所教授方出役手伝		
7		小野友五郎広胖	44	▼◎	1817(文化14)年10月23日生 1898(明治31)年10月29日没
			牧野越中守家来、軍艦操練所教授方出役		
8	測量方	伴鉄太郎	35	▼◎	1825(文政8)年生 1902(明治35)年8月7日没
			箱館奉行支配調役並、軍艦操練所教授方出役		
9		松岡馨吉	数え19	◎	1841(天保12)年生 1871(明治4)年7月5日没
			葦山代官江川家元締手代松岡正平三男、同家鉄砲方 普請役格、軍艦操練所教授方出役		
10		赤松大三郎則良 【測量方手伝】	20	▼◎	1841(天保12)年11月1日生 1920(大正9)年9月23日没
			御先手三浦美作守組与力吉沢勇之進次男、 軍艦操練所教授方出役手伝		
11		肥田浜五郎為良	31	◎	1830(天保元)年生 1889(明治22)年4月28日没
			普請役格、鉄砲方江川太郎左衛門配下手代 軍艦操練所教授方出役		

12	蒸気方	山本金次郎	35	▼◎	1826(文政9)年生 1864(元治元)年7月没
			浦賀奉行配下同心、軍艦操練所教授方出役		
		13	岡田井蔵 【蒸気方手伝】	24	◎
浦賀奉行配下与力 岡田増太郎弟 軍艦操練所教授方出役手伝					
14		小杉雅之進 【蒸気方手伝】	18	▼◎	1843(天保14)年10月1日生 1909(明治42)年8月21日没 戒名=壽嶺院殿量遠日謙居士/大雄寺@谷中
			御賄御酒役世話役長崎奉行支配調役 右藤弟 軍艦操練所教授方出役手伝		
15	通弁方	中濱万次郎	34	▼	1827(文政10)年生 1898(明治31)年11月12日没
			普請役格、鉄砲方江川太郎左衛門配下手代付 軍艦操練所教授方出役		
16	公用方	吉岡勇平政成	32	—	1830(天保元)年2月26日生 1870(明治3)年11月18日没
			軍艦操練所勤番		
17		小永井五八郎岳 【公用方下役】	32	▼	1829(文政12)年生 1889(明治22)年12月没
			軍艦操練所勤番下役		
18		牧山修卿	27	▼	1834(天保5)年生 没年月日不明
			松前伊豆守医師、御雇医師		
19	医師	田中秀安 【牧山医師見習】	不明	—	—
			—		

20		木村宋俊	不明	—	—
			松平伯耆守医師、御雇医師手代		
21		中村清太郎 【木村医師見習】	不明	▼	—
			—		
22		大橋栄二	不明	—	—
			木村家用人		
23	奉行従者	福沢諭吉	27	▼	1834(天保5)年1月10日生 1901(明治34)年2月3日没
			—		
24		長尾幸作	26	▼	1834(天保5)年生 1885(明治18)年没
			—		
25	奉行従者 鼓手	斉藤留蔵	16	▼	1844(弘化元)年2月10日生 1917(大正6)年1月8日没 戒名=大乘院法心日應居士
			下野壬生鳥居家来		
26		秀島藤之助	不明	◎	—
			肥前佐賀鍋島家家来		

船大工・鍛冶役

番号	職名	氏名		年齢	識別	太平洋横断後の消息ほか
		姓	名			
1	大工役	鈴木	長吉	42	◎▼	文政元年(1818年頃)生まれ／明治5年2月28日/1872年4月5日病没。 【091226追記】過去帳では明治5年4月17日/1872年5月23日病没。 享年55歳
				伊豆河津浜村		
				浦賀奉行配下船大工重五郎弟子、鳳凰丸建造に関わる。 【100328追記】洋式帆船建造の第一人者、帰国後、石川島造船所で千代田艦の建造に当たる。		
※2009年12月17日／河津町役場総務課からの情報提供で出身地・生年・没年月日を修正しました。						
2	鍛冶役	小林	菊太郎	不明	◎	江川太郎左衛門鍛冶組 江戸
				江戸		
				【100328追記】帰国後、鈴木長吉と共に石川島造船所で千代田艦の建造に当たる。維新後横須賀造船所に勤める		

塩飽出身水主

番号	職名	氏名		年齢	識別	生年月日・没年月日など
		姓	名	出身		
				太平洋横断後の消息などの追記		
3	鉄砲方水主小頭兼楯取賄方	豊島	兵吉	不明	◎	平吉と書かれる場合がある。
				本島笠島浦		
【100328修正】幕府海軍で千秋丸・幡龍丸で水主小頭を務めた。						
4		大熊	実次郎	24	▼	天保8年11月20日生(1837年頃)／ 1918(大正7)年2月18日没<享年82歳> 戒名＝法光院義教良乘居士
				本島笠島浦		
【100328追記】神戸操練所開設に関わり、閉鎖後に紀州藩で帆走術を教えた。1868年1月1日の神戸港開時、英国領事館になった神戸操練所ドックの責任者を務める。その後、神戸で船具商と造船業(航洋船)を営む。明治17年、二等運転士仮免許を受ける。全国で7番目、その後我国初の甲種船長となる。						
5		森	勤次郎	21	—	天保11年8月18日生(1840年頃) 1902(明治35)年11月24日没
				櫃石島		
【050912追記】勤二郎、勤三郎と書かれる場合がある。大阪商船就航100周年調査で山陽新聞より初代船長で明治33年まで海上生活されたことが判明。						
6		高橋	金左衛門	不明	—	1869(明治2)年1月15日没／戒名＝教乗彼岸信士 金右衛門と書かれる場合がある。
				牛島里浦		
【100328追記】小笠原へ、千秋丸の乗組員で参加。函館戦争で軍艦にて没						

鉄砲方水主	7	東	国蔵	不明	▼	1881(明治14)年9月1日没 国造と書かれる場合がある。
				広島江之浦		
				【100328追記】咸臨丸小笠原航海に参加。維新後、琵琶湖で水夫をする。 琵琶湖初の蒸気船船長になる。		
	8	横井	松太郎	18	—	天保14年2月28日生(1843年頃) 1901(明治34)年1月25日没 戒名=直至院真善道応居士
				本島泊浦		病気のためサンフランシスコに滞留。万延元年8月帰国。
9	平尾	宮三郎	18	▼	—	
			本島宮之濱		【061010追記】太平洋横断時の年齢判明/子孫からの情報提供 【100328追記】塩飽水主の最年少者。咸臨丸小笠原航海に参加。 戊辰戦争で東都にて没。	
10	郡家	瀧蔵	21	◎▼	天保11年9月19日生(1840年頃) / 1902(明治35)年9月1日没<享年63歳> 戒名=普証導専信士/滝造と書かれる場合がある。	
			牛島		—	
11	松井	弥十郎	不明	—	1884(明治17)年12月19日没 弥重郎と書かれる場合がある。	
			広島江之浦		【100328追記】桑港への、勝の買い出しに同行した話が残る。 咸臨丸小笠原航海に参加。	

12	—	和三郎	不明	—	—
			広島茂浦		
13	島本	善四郎	23	◎▼	天保9年生(1838年頃) 万延元年7月25日<1860年9月10日>没 善次郎と書かれる場合がある。
			瀬居島		
			【100328追記】帰国後、鵬翔丸の乗り組みとなる。 万延元年7月25日、伊豆下田大浦沖で座礁沈没で遭難死		
14	石川	政太郎	26	—	天保4年12月23日(1833年頃)生/ 1907(明治40)年11月13日熊本で没<享年75歳>
			本島泊浦		
			【100328追記】咸臨丸航海日誌を残す。榎本艦隊に参加し、後に横須賀造船所の工長になる。 【130120追記】先祖の記録参照		
15	帆仕立方役 生田	治作	22	◎	平吉と書かれる場合がある。
			櫃石島		
			病気のためサンフランシスコに滞留。万延元年8月帰国。		
16	曾根	仁作	不明	◎	1868(明治元)年9月18日没 量平と書かれる場合がある。
			広島立石浦		
			【100328追記】文久3年に水主同心格に取り立てられて武士になる。後に富士山丸の水主小頭として、功績を上げた。榎本艦隊に咸臨丸水主小頭で参加。房総半島沖で漂流し、下田経由で清水に寄港するが、清水にて官軍の銃撃を受けて死亡。		

17	水主小頭	一	音吉	不明	—	乙吉と書かれる場合がある。
				櫃石島		
				—		
				18	小栗	善三郎
本島笠島浦						
【100328追記】咸臨丸乗組員最年長者。小笠原航海迄咸臨丸に乗っていたが、江戸の到着後に岩村吉之助を伴って函館丸で函館に向い、函館にて千石船に乗る。						
19	玉谷	好平	40	—	1872(明治5)年没。<享年52歳>	
			高見島			
			病気のためサンフランシスコに滞留。万延元年8月帰国。 【100328追記】幕府軍艦の水主小頭で働く。 【130120追記】先祖の記録参照			
20	石川	大助	不明	—	1877(明治10)年没 石川政太郎の弟	
			本島泊浦			
【100328追記】咸臨丸小笠原航海に参加。						
21	平田	源次郎	33	—	文政11年4月10日生(1828年頃) 1893(明治26)年1月27日没	
			広島茂浦			
			【100328追記】榎本艦隊に参加。函館戦争後、函館にて蒸気船の船長を務める。 1893(明治26)年1月27日没			

22	岡田	源之助	25	●	安政7年3月3日/1860年3月23日病没<享年25歳>
			広島青木浦		
サンフランシスコにて病死。ローレルヒルの墓地に埋葬。					
23	山下	伊三郎	不明	◎▼	1887(明治20)年閏4月3日没
			広島青木浦		
【100401修正】咸臨丸小笠原航海に参加。維新迄、幕船に乗務した。					
24	宮本	角之丞	31	◎	天保元年4月10日(1830年頃)生/ 1878(明治11)年4月8日東京品川にて没<享年49歳> 戒名=本阿角道信士/角太郎、角治と書かれる場合がある。
			瀬居島		
【100328追記】咸臨丸小笠原航海に参加。大熊実次郎が没後の位牌を東京から本島の宮本英太郎に届ける。					
25	岩村	吉之助	不明	—	吉之介と書かれる場合がある。
			本島新在家		
【100328追記】咸臨丸小笠原航海に参加。後に函館で大倉近兵衛と名乗って、笠島小栗家の千石船に乗っていた模様。					
26	—	幸吉	39	◎	万延元年7月25日<1860年9月10日>没
			広島稲田浦		
【100328追記】帰国後、鵬翔丸の乗り組みとなる。万延元年7月25日、伊豆下田大浦沖で座礁沈没で遭難死。苗字が「伴」と思われる。					

27	大倉	幸三郎	19	▼	天保11年8月5日(1840年)生 1874(明治7)年4月24日付で北海道開拓使御用掛 1910(明治43)年8月29日没<享年70歳> 戒名=隆岸浄興信士				
			本島大浦						
			【100328追記】咸臨丸小笠原航海に参加、その後、不明 【110614追記】子孫から教えていただいた没年月日と享年を追記 【120820追記】開拓使御用掛は、北海道開拓使記録に基づく／子孫調査 【121128追記】先祖の記録参照						
			28	水主	向井	仁助	不明	◎	明治27年没 仁介と書かれる場合がある。
							広島市井浦		
【100332修正】幕府海軍で千秋丸・幡龍丸で水主小頭を務めた。									
29	松尾	延次郎					40	◎	文政4年12月28日(1821年頃)生／ 1894(明治27)年2月29日没<享年74歳> 戒名=浄誉法山信士
							瀬居島		
			病気のためサンフランシスコに滞留。万延元年8月帰国 信次郎と書かれる場合がある。 【100328追記】明治になっても長く水夫として務める。桑港での写真あり						
			30	田中	清右衛門	不明	▼	—	
						高見島			
【110621修正】二女が中西竹蔵妻となる。									
31	高島	清蔵				45	◎	文化13年4月27日(1816年頃)生／ 1896(明治29)年3月28日没<享年81歳> 戒名=高島院清莊正富居士／ 清造と書かれる場合がある。	
						本島笠島浦			
			墓碑は笠島薬師堂の前にある。 【100328追記】咸臨丸のスケッチが載った新聞を持帰ったが、その後の調査の過程で紛失された。咸臨丸小笠原航海に参加。						

32	中西	竹蔵	不明	▼	—
			高見島		
			【110621修正】子孫入会により、中西竹蔵妻が、田中清右衛門二女と判明。		
33	—	友吉	不明	—	—
			広島茂浦		
34	平田	富蔵	不明	● ▼	安政7年3月10日／ 1860年3月30日サンフランシスコにて病死
			佐柳島		
			ローレルヒルの墓地に埋葬。富造と書かれる場合がある。		
35	森	寅吉	不明	▼	万延元年7月25日<1860年9月10日>没 虎吉と書かれる場合がある。
			広島茂浦		
			【100328追記】帰国後、鵬翔丸の乗り組みとなる。 万延元年7月25日、伊豆下田大浦沖で座礁沈没で遭難死		
36	前田	常三郎	26	◎	天保6年(1835年頃)生れ 1891(明治24)年1月27日没
			佐柳島		
			【100328追記】咸臨丸小笠原航海に参加後、神戸操練所で働く。閉鎖時に坂本龍馬に従って行動する。亀山社中、海援隊で佐柳高次を名乗る。		
37	—	吉松	46	◎	—
			高見島		
			病人8名と共にサンフランシスコに滞留。万延元年8月帰国。 【100329追記】帰国後、水主小頭に昇格。		

長崎出身水主

番号	職名	氏名		年齢	識別	備考
		姓	名	出身		
38		—	長次郎	不明	—	—
				戸町		
39		—	大次郎	不明	—	太次郎と書かれる場合がある。
				小瀬戸		
40		—	栄吉	不明	—	病気のためサンフランシスコに滞留。 万延元年8月帰国。
				西泊		
41		—	福次郎	不明	◎	福太郎と書かれる場合がある。
				野茂		
42	中村		伊助	不明	◎	—
				飽之浦		
43		—	嘉右衛門	不明	—	—
				樺島町		
44		—	久平	不明	—	九平と書かれる場合がある。
				小瀬戸		

45	長崎水主	—	久太夫	不明	—	病気のためサンフランシスコに滞留。 万延元年8月帰国。久太郎と書かれる場合がある。	
				瀬戸脇			
		46	—	百太郎	不明	—	—
					西泊		
		47	松本	信吉	不明	◎	新吉と書かれる場合がある。
					水之浦		
		48	—	庄大夫	不明	—	庄太郎と書かれる場合がある。
					西泊		
49	—	惣八	不明	—	病人8名と共にサンフランシスコに滞留。 万延元年8月帰国。宗八、源八と書かれる場合がある。		
			飽之浦				
50	—	助次郎	不明	—	—		
			大浦				
51	河野	辰蔵	不明	—	1840(天保11)年生/1893(明治26)年2月22日没 勝蔵、勝造と書かれる場合がある。		
			西泊				
52	—	梅吉	不明	—	—		
			小瀬戸				

53	火焚役 小頭	内田	嘉八	不明	◎	—
54		—	小三郎	不明	◎	—
55		—	九平	不明	◎	久平と書かれる場合がある。
56	火焚	—	弁之助	39	—	1822(文政5)年生、1865(慶応4)年没
57		—	伊三郎	不明	—	—
58		—	国太郎	不明	—	—
59		—	又次郎	不明	—	—
60		—	峰吉	不明	◎●	安政7年間4月1日／1860年5月20日サンフランシスコにて病死。 ローレルヒルの墓地に埋葬。峯吉と書かれる場合がある。
61		—	紋次郎	不明	—	紋太郎と書かれる場合がある。
62		—	竹治郎	不明	—	竹次郎、吉之助と書かれる場合がある。
63		—	滝蔵	21	—	病気のためサンフランシスコに滞留。 万延元年8月帰国。瀧吉と書かれる場合がある。
64		—	藤助	不明	—	藤介と書かれる場合がある。
65		—	弥蔵	不明	—	—
66		—	善蔵	不明	—	—
67		—	吉之介	不明	—	—
68	—	三四郎	不明	—	—	

長崎出身水主

番号	職名	氏名
1	海軍大尉、指揮官	John M. Brooke／ジョン・M・ブルック ▼
2	事務長	Charles Rogier／チャールス・ロジャー
3	砲手	Charles Falk／チャールス・フォルク
4	外科医	Lucian P. Kendall／ルシアン・P・ケンダル
5	舵手	Alexander Morrison／アレクサンダー・モリソン
6	掌帆手	Charles Smith／チャールス・スミス
7	帆縫工	Frank Cole／フランク・コール
8	水兵	George Smith／ジョージ・スミス
9		Axel Smedborg／アクセル・スメドボルグ
10	コック	James Burke／ジェームス・パーク
11	海図専門家	Edward M. Kern／エドワード・M・カーン／士官待遇

---